

# 性の多様性について理解を深める健康教育

— 自他の個性を尊重し、互いに認め合える人間関係づくり —

健康教育研究会議

研究員 今野 奈央子 (川崎市立南河原小学校) 野崎 萌 (川崎市立白幡台小学校)  
渡辺 和加奈 (川崎市立富士見中学校) 福寿 典子 (川崎市立日吉中学校)  
指導主事 野口 裕子

## I 主題設定の理由

性の多様性についての対応は現代的な健康課題の一つとして挙げられており、社会的関心の高まりとともに、より適切な対応が求められようになっている。文部科学省の「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細やかな対応の実施等について（通知）」（平成 27 年）や「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細やかな対応等の実施について（教職員向け）」（平成 28 年）では、教職員の適切な理解を促進することが必要であるとしている。また、第 3 期川崎市人権施策推進協議会の「性的マイノリティの人々の人権に関して一答申—」では、学校における取組について、正しい情報の提供や環境整備、教職員の研修、相談体制等が具体的に示されている。そして、「川崎市子どもの権利に関する条例」においては、安心して生きる権利、ありのままの自分でいる権利等を定めている。以上のことから、学校生活を送るうえで性的マイノリティの子どもたちの個別の事案に応じ、心情等に配慮して適切に対応をすることは必須である。

研究を進めるにあたり、研究員所属校の児童生徒の実態や健康課題について話し合ったところ、性の多様性の対応に関する相談が増えていることが分かった。具体的には、児童生徒からの自分の性への違和感や中学校入学時の基準服、宿泊行事の際の入浴についてなどである。また、学校の環境は更衣室、トイレ、グループ分け等、性の多様性への配慮が少ない現状にある。そのような現状の中で性的マイノリティの子どもたちは悩みや不安を抱えている。

こういった現状を踏まえ、学級活動の話し合い活動を通して当事者だけの問題としてではなく、当事者以外の児童生徒も性の多様性について正しく理解し、互いの違いを大切にし、認め合える関係となるようにすることが必要であると考えた。そこで、研究主題を「性の多様性について理解を深める健康教育」として、副題を「自他の個性を尊重し、互いに認め合える人間関係づくり」と設定した。

## II 研究の内容

### 1 研究の方法

#### (1) 子どもの実態把握

研究員の各校における来室者の傾向から共通の健康課題について探り、児童生徒の実態把握のため Google フォームを活用し授業前アンケートを 2 回 (①、②) 行った。

#### (2) 効果的な指導内容や方法の検討

文献および先行研究等の調査と研修会に参加し、効果的な指導内容や方法を検討した。

#### (3) 授業モデルの作成

性の多様性について理解を深める保健の指導の授業モデルを作成した。

#### (4) 授業の実施

児童生徒の実態調査（授業前アンケート①②）をもとに発達段階に合わせ、4校で授業を実施した。

#### (5) 授業の評価

授業後に授業後アンケートを行い、児童生徒の変容を見取り、課題となることをまとめた。

## 2 授業前アンケート①②の内容と分析

### (1) 授業前アンケート内容

授業の約1ヶ月前に性の多様性に関する理解度を把握するための授業前アンケート①を実施した（表1）。また、授業の1週間前に性の多様性に対する意識を把握するための授業前アンケート②を実施した（表2）。

表1 授業前アンケート①の内容

ア <小> 人は「男性」か「女性」のどちらかである。 <中> 性のあり方は、体の性だけで判断できる。 <b>選択肢</b> 正しい・正しくない・分からない
イ LGBTQという言葉や意味を知っていますか？ <b>選択肢</b> 言葉も意味も知っている・言葉は聞いたことがあるが意味は知らない・言葉も意味も知らない

表2 授業前アンケート②の内容

ア LGBTQや性についての話は自分に関わりのあることだと思う。
イ <小> ありのままの自分を大切にしている。 <中> 自分のセクシャリティ（人間の性のあり方）に関わらずありのままの自分を大切にしている。
ウ <小> その人がLGBTQかそうでないかに関わらず、周りの人を大切にしている。 <中> その人のセクシャリティに関わらず、その人や周りの人を大切にしている。
エ あなたが友達からLGBTQであることを伝えられたら、その人と今まで通り関わることができる。
オ あなたが友達からLGBTQであることを伝えられたら、その人の気持ちを理解しようと思う。 <b>選択肢</b> とてもそう思う・そう思う・どちらとも言えない・そう思わない・全くそう思わない

### (2) 授業前アンケート結果

授業前アンケート①「イ LGBTQという言葉や意味を知っていますか」の質問では、4校全てで50%以上の児童生徒が「言葉も意味も知らない」と回答していることが分かった（図1）。

また、学年が下がるほど、その割合が高いことが分かった。この結果を踏まえ、LGBTQとは何かという説明を加えてから授業前アンケート②を実施した。

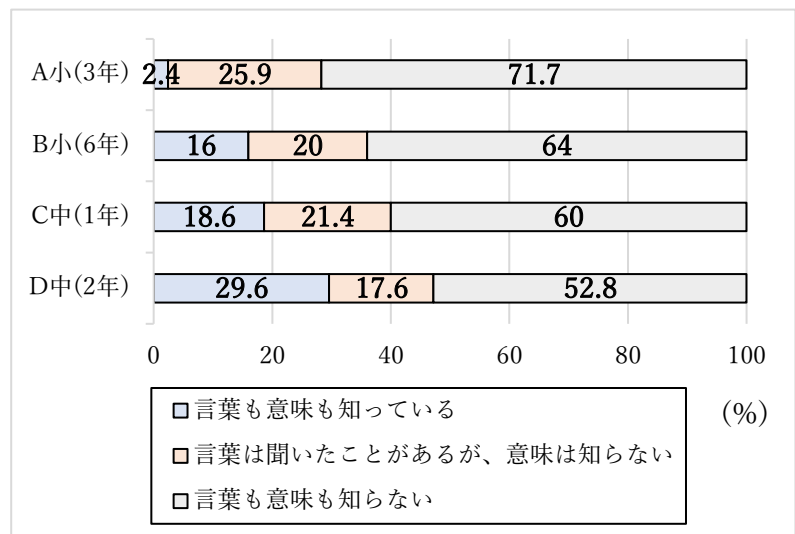


図1 授業前アンケート①イ LGBTQという言葉や意味を知っていますかの結果

### 3 授業モデル作成のポイント

授業前アンケート①②の結果から、今回の授業で初めてLGBTQという言葉を知ったり、学習したりする児童生徒が多いため、性の多様性について理解し、自分でできることを考える機会を作りたいと思い、授業モデルを作成した。

#### (1) 特別活動の内容と対象学年の検討

体育科保健領域、保健体育科保健分野の既習事項と関連させながら特別活動の内容を検討することとした。特別活動の学級活動(2)、小学校では「いよりよい人間関係の育成」、中学校では「ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成」で実施することとした。対象学年については、小学校3年生・6年生、中学校については、1年生・2年生で実施することとした。

#### (2) 教材の工夫

児童生徒が身近な課題として捉えられるように、各学校で実施した授業前アンケート①②の結果を活用した。また、興味や関心をもって学べるようにLGBTQ当事者の実体験や当時の心情をわかりやすく説明した動画を使用した。

#### (3) 指導上の配慮

授業を行うにあたり当事者がいることも考えられるため、事前に保護者宛に授業内容について知らせる文書を配布した。また、配慮が必要な児童生徒には事前に声をかけ、個別の健康相談につなげた。

#### (4) 担任との連携と養護教諭の専門性

養護教諭の専門性を生かし、性の多様性についてわかりやすく説明した。資料の提示や発問の方法について担任と検討した。

### 4 授業実践

(1) 実施学年 A小学校3年生、B小学校6年生、C中学校1年生、D中学校2年生

(2) 実施時期 令和4年10月～11月

#### (3) 本時のねらい

小：性の多様性と性に違和感をもっている人の気持ちを理解し、これからの生活に生かす自分なりのめあてをもち、実践できるようにする。

中：①性の多様性について正しく理解する。

②性のあり方は自分を含めて一人一人違うことを理解し、互いの違いを大切にするために自分ができることを考え、実践できるようにする。

(4) 授業者 T1：学級担任 T2：養護教諭

#### (5) 授業の実際

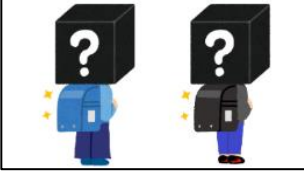
発達段階や実態に応じて手立ては異なるが、4校同様の授業内容で実施した。導入では、本時の題材とねらいを確認し、授業前アンケート①②の結果を提示した(図2)。展開では、スライドを活用し、性の多様性について説明し理解を深め、性のあり方は人によって異なることを理解するために実在しない人物を例に挙げ、想像しながら考えるようにした。当事者の動画を視聴する際には、見る視点を伝え、その後の話し合いにつなげた。個人で考える場面と集団で考える場面を設定することで、思考を深めるようにした(図3)。

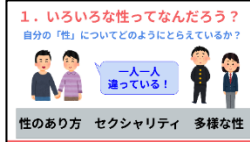
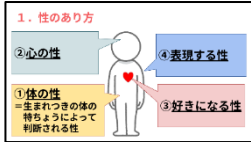


図2 授業前アンケート



図3 個人で考えている場面

	児童生徒の活動	○指導上の留意点
導入 (つかむ)	1 本時の題材とねらいを理解する。	○アンケート結果から、気が付いたことなどを投げかける。 ○顔を隠した2人のイラストを提示し、普段何気なく、色や見た目などで人の性を判断していることに気付けるようにする。
	<b>【題材名】</b> 小3 いろいろな性について考えよう 小6 人は男性と女性の2つだけ？ ～おたがいのちがいを認め合おう～ 中1 いろいろな性って何だろう？ ～お互いの違いを大切にしよう～ 中2 いろいろな性って何だろう？	
展開 (さぐる) (見つける)	2 性の多様性について知る。 ①性のあり方を知る。 (からだの性 心の性 好きになる性 表現する性)	○スライドを活用して性の多様性について説明する。
	②性のグラデーションの図を知る。	○自分事として考えられるように、誰もが多様な性の中の一人であることを指導する。
終末 (決める)	3 当事者の動画を視聴する。	○〈動画の当事者〉の気持ちに寄りそって視聴するように伝える。
	4 動画の内容整理をする。	※動画の視聴方法は、授業展開に合わせて工夫する。
	5 発問について考える。(個人思考)	○〈動画の当事者〉が笑顔で話ができる理由についてふれる。
	6 自分の考えをもとに班で話し合う。(集団思考)	○質問をしたり、お互いの考えを認め合ったりして、学びを深めていくよう指導する。
	7 カミングアウトやアウティングについて知る。 ※中学校のみ	○スライドを使って説明をする。
	8 今後、自分が実践すること(めあて)を考え、ワークシートに記入する。	○めあてを立てる際、話し合いをもとに考えることを伝える。



体の性は、男性です。  
心の性は、どちらかというと女性よりです。  
好きになる性は、男性です。  
表現する性は、どちらか選べないなら、男性を選びます。

**Aさん**

- ・例としてAさんの性のあり方を考える。
- ・ピンク(女性)と青(男性)ではどこにあてはまるのか、2つでは分けきれないことに気付く。
- ・グラデーションの掲示をし、同様にどこに当てはまるか考える。

- 【発問】**
- 小3・小6 自分が〈動画の当事者〉の友だちだったら、どんなことを大切にしたいですか？
  - 中1 お互いの「性のあり方」の違いを大切にするためには、あなたはどうしますか？
  - 中2 〈動画の当事者〉は周りの人からどのように接してほしいかと思っていましたか？

- 【意思決定】**
- 小3 自分も周りの人も自分らしく安心して生活するためにこれから自分がしていきたいめあてを決めよう。
  - 小6 これからの生活でどんなことを心がけていきたいですか？
  - 中1 お互いの違いを大切にするために、自分が心がけること、実践することは何ですか？
  - 中2 今日の学習で、自分の考えが変わったこと、学習が深まったことは何ですか？

図4 授業モデル 指導案

## (6) 事後の活動

### ①事後アンケート

授業前に行った調査と同様の質問項目に授業を通して分かったことや考えたことなどの記述項目を加え、授業前後の変容を見とった。

### ②絵本の読み聞かせ

小学校では、学習内容の理解をさらに深めるため、A小学校は『わたしはあかねこ』、B小学校では『Red あかくてあおいクレヨンのはなし』を学校司書により読み聞かせを行った。小学校では、定期的に本の読み聞かせを行っているため、児童も親しみやすく、真剣に読み聞かせを聞く姿や、読み聞かせ後の感想から理解が深まった様子が伺えた。

### ③個別の健康相談

性的マイノリティ当事者や配慮を要する児童生徒の個別の健康相談を行った。また、事後アンケートで気になる記述のあった児童生徒には、時間と場に配慮をして話を聞くなどの対応をした。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 研究の成果

研究の成果は、授業後の研究協議で話し合われたこと、授業の際に使用した児童生徒のワークシート、授業前後のアンケートから総合的に考察した。

#### (1) 授業について

授業実施前に児童生徒にアンケートをとることで、授業を実施することに対してどのような配慮が必要か、などを把握して実施したことは児童生徒の安心に繋がった。性の多様性をレインボーカラーで示した教材を使用し、児童生徒が自分自身も多様な色彩の中の一人という意識に繋がった。動画の活用方法については、児童生徒の発達段階に合わせ使用し、当事者の動画から身近な課題と捉え考えを深めることができた。

#### (2) 児童生徒の変容

授業の前後に行ったアンケートの結果を比較して考察し、児童生徒の変容を見とることとした。

「性のあり方は体の性だけで判断できる」の質問では、4校ともに「正しくない」と回答した割合が30%以上増加したことから、性の多様性についての理解が進んだと考えられる(表3)。

表3 性のあり方は体の性だけで判断できる (%)

	A小学校(3年)		B小学校(6年)		C中学校(1年)		D中学校(2年)	
	授業前	授業後	授業前	授業後	授業前	授業後	授業前	授業後
正しい	61.2	24.2	64.0	17.0	15.7	4.1	14.5	6.6
正しくない	22.4	54.9	18.0	68.1	31.4	86.0	34.0	65.3
分からない	16.5	20.7	18.0	14.9	52.9	9.9	51.6	28.1

「LGBTQや性についての話は自分に関わりがあることだと思う」の質問では、「とてもそう思う・そう思う(自分に関わりがある)」の回答が小3で40%、小6で22%、中1で34%、中2で13%増加した。性の多様性について自分も無関係ではないと考えたことが伺える。また、「どちらとも言えない」の回答は減少傾向ではあったが、授業後も約30%あった(表4)。

表4 LGBTQや性についての話は自分に関わりがあることだと思う (%)

	A小学校(3年)		B小学校(6年)		C中学校(1年)		D中学校(2年)	
	授業前	授業後	授業前	授業後	授業前	授業後	授業前	授業後
とてもそう思う	10.7	<b>28.0</b>	12.5	<b>17.0</b>	6.5	<b>17.4</b>	23.4	<b>16.8</b>
そう思う	7.1	<b>29.3</b>	8.3	<b>25.5</b>	23.4	<b>46.3</b>	11.4	<b>31.1</b>
どちらとも言えない	35.7	<b>30.5</b>	31.3	<b>31.9</b>	47.6	<b>32.2</b>	34.1	<b>28.7</b>

「ありのままの自分を大切にしていますか」の質問では、授業前から高い割合となっていたが、「とてもそう思う・そう思う(自分を大切にしている)」の回答が増加した(表5)。

「その人がLGBTQかそうでないかに関わらず、周りの人を大切にしている」の質問では、「ありのままの自分を大切にしていますか」の質問と同様に、授業前から高い割合となっていたが、「とてもそう思う・そう思う(自分を大切にしている)」の回答が増加した。このことから、自分らしさを大切に、相手の個性を尊重しようとする気持ちが高まったと考えられる。

表5 ありのままの自分を大切にしていますか (%)

	A小学校(3年)		B小学校(6年)		C中学校(1年)		D中学校(2年)	
	授業前	授業後	授業前	授業後	授業前	授業後	授業前	授業後
とてもそう思う	56.0	<b>56.1</b>	41.4	<b>55.3</b>	35.2	<b>35.5</b>	30.5	<b>35.9</b>
そう思う	25.0	<b>29.3</b>	47.9	<b>34.0</b>	41.0	<b>46.3</b>	41.9	<b>43.7</b>
どちらとも言えない	13.1	<b>11.0</b>	8.3	<b>4.3</b>	20.5	<b>16.5</b>	18.6	<b>18.0</b>

「あなたが友達からLGBTQであることを伝えられたらその人の気持ちを理解しようと思う」の質問では、「とてもそう思う・そう思う」はこちらも授業前から高い割合だったが、授業後には約90%となった(表6)。

「あなたが友達からLGBTQであることを伝えられたらその人と今まで通り関わることができる」の質問も同様の傾向で、授業後には「とてもそう思う・そう思う」が小3で88%、小6で98%、中1で88%、中2で84%となった。このことから、自分と相手の個性を尊重し、互いに認め合える人間関係を築こうとする意識が高まっていると見とることができた。

表6 あなたが友達からLGBTQであることを伝えられたらその人の気持ちを理解しようと思う (%)

	A小学校(3年)		B小学校(6年)		C中学校(1年)		D中学校(2年)	
	授業前	授業後	授業前	授業後	授業前	授業後	授業前	授業後
とてもそう思う	60.7	<b>65.8</b>	66.7	<b>83.0</b>	46.8	<b>53.7</b>	47.3	<b>44.3</b>
そう思う	20.2	<b>22.2</b>	29.2	<b>12.8</b>	41.1	<b>38.8</b>	35.5	<b>39.5</b>
どちらとも言えない	17.9	<b>9.8</b>	2.1	<b>2.1</b>	10.5	<b>5.0</b>	15.0	<b>12.6</b>

授業前に行った調査と同様の質問項目に授業を通して分かったことや考えたことなどの記述項目を加え、授業後アンケートの記述部分から授業前後の変容を見とった。記述内容ごとにまとめてカテゴリー分けをした。大きく3つに分類され、それ以外を「その他」とした。各学校の授業のねらいや授業展開に違いがあるため、カテゴリー分けされた数にばらつきがあったが、全体として多い順に大カテゴリーの1・2・3とした。

「カテゴリー1 性の多様性についての理解」の記述が最も多くあり、さらに4つのサブカテゴリー

に分けられた。多様な性について、様々な角度から理解していると考えられる。

「カテゴリー2 相手への接し方」では、様々な接し方の記述があり、互いに認め合える人間関係づくりを実践するためにはどうすればよいかを一人一人が考えたと思われた。

「カテゴリー3 自分自身に問題」については、「自分らしく・相手も自分らしく・みんな自分らしく」のキーワードが多く見られた。互いの個性を認め合おうとする姿と思われた。

「カテゴリー4 その他」として、様々な記述があり、個別指導が必要な内容や、発達段階に合わせた授業内容や質問内容を検討するための貴重な資料となった。

児童生徒の変容を授業前後のアンケートから考察したが、主題とした「性の多様性について理解を深める健康教育ー自他の個性を尊重し、互いに認め合える人間関係づくりー」と照らし、性の多様性についての理解が深まり、自分らしさを大切に、相手の個性を尊重しようとする気持ちが高まり、互いに認め合う人間関係とはどのようなことかを考えることができたと思われたため、一定の成果があったと考える（表7）。

表7 事後アンケートの記述（カテゴリー分け）

カテゴリー	サブカテゴリー	記述内容（原文を読みやすさの観点から一部修正）
1 性の多様性についての理解	「性のあり方」にはいろいろある	性別は、男と女だけじゃないことを知りました。（小3） 体の性と心の性が違うってどういうことかわからなかったけど、性は周りの人が勝手に判断できるものじゃないとわかりました。（中1）
	気持ちや考えもいろいろある	同じ人間でもいろいろな心を持つ、いろいろな人がいる。（小3） 一人一人がいろんな気持ちを持っている。（中2）
	見た目からはわからない	見た目でその人の性を判断できないし、してはいけない。（中2）
	普通は人によって違う	自分では何も感じていないことが、周りの人にとっては普通じゃないことを知れた。（中2）
	その他	人はありのままの自分で生きることができる権利がある。（小3）
2 相手への接し方	普通に接する 今まで通りに接する	自分は今まで通り仲良く遊んだりしようと思いました。（小6） なんかしてあげるとかじゃなくて、今まで通り話したりすることが大事なのかなと思ったので、そうしようと思いました。（中1）
	相手を理解する 受け入れる 認める	どんな人でもありのままの自分をさらけ出せるわけではないので理解したいです。（中1）
	相手を尊重する 大切にする	自分やまわりの人の気持ちを大切に。（小3）
	差別しない	LGBTQ の人がいてもその人の考えを受け入れようと思った。人によって考えは違うし、差別するのは違う。（中1）
	相手を傷つけないようにかわる 悪口など言わない	相手の心を傷つける言葉を言わないように生活する。（小3） 他人が干渉して傷つけたりすることはやってはいけないと思った。（中2）
	仲良くする 一緒に遊ぶ	その人がLGBTQ でも気にせず遊んだり、話をしたり、一緒に勉強をする。（小3）
3 自分自身の問題	自分らしくするのが大切 自分らしくしたい	男女にとらわれず自分らしくしていいと思いました。（小3） 私は周りを比べて悲しむことがあります。この授業で自分は自分でいいとわかりました。この授業で自信ができました。（小6）
	みんなが自分らしくできるとよい	LGBTQ の人もそうでない人も、ありのままの自分でいられるような世の中になればいいなと思った。（中2）
4 その他	どういふことか、まったくわかりません。（小3）	
	これからもっとLGBTQについて知りたい。（中1）	こういう授業をうけるのはちょっと怖かった。（中1）
	この授業を通して今までLGBTQのことを知らなかった人も理解してLGBTQの人がカミングアウトしやすい社会に変わればいいなと思いました。（中1）	
	LGBTQについて本気で悩んでいる人がいる。（中2）	



## 2 今後の課題

### (1) 授業について

グループ活動（話し合い）については、一人一人が考えを深め、様々な人の考えを聞いてさらに思考が深まるよう、発問の工夫や教員の指導力が必要となった。

性の多様性についての授業では、体と心の両方が大きく変化する時期であることを考えると、内容の精選が必要である。また、個人差もあるためその配慮も必要となる。より発達段階にあった内容となるような教材を工夫することが課題となった。

### (2) 他の教科領域とのつながり

一度きりで終わることがないように、他の教科との連携が必要である。保健教育でいつ頃、どのような内容を学習しているかを把握し、関連付けられるようにしたい。また、特別活動以外にも、道徳や総合的な学習の時間で性の多様性に関する指導を行う場合は、児童生徒の実態に合わせ、ねらいを明確にする必要がある。そのため、学校経営計画等を参考にし、学校全体で計画的に取り組むことが今後の課題となった。

### (3) 教員の理解と指導の継続

授業だけではなく、児童生徒と関わる全ての場面が教育の機会となる。また、家庭の理解や協力も、性の多様性の理解を深めるための基盤となる。学校全体の課題として、教職員全体の理解を深め、長期的な視野で児童生徒を育成できるようにすることも課題となった。

養護教諭は校内のコーディネーターとなり、児童生徒の実態把握や環境調整、授業への参画など積極的に関わり、学校全体で性の多様性の理解が深まるよう今後も取り組みたい。

最後に、本研究を進めるにあたり、ご指導、ご助言いただいた先生方、また、研究をご支援していただいた研究員所属校の校長先生並びに教職員の皆様に心から感謝申し上げます。

### 【参考文献】

- 1) 特定非営利活動法人 ReBit 「ALLY TEACHER' S TOOL KIT 多様な性ってなんだろう？」 2017年
- 2) 文部科学省「性同一性障害や性的志向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細やかな対応等の実施について（教職員向け）」  
2016年
- 3) 徳島県教育委員会 「性の多様性を理解するためー教職員用ハンドブックー」 2018年
- 4) 第3期川崎市人権施策推進協議会 「性的マイノリティの人々の人権に関してー答申ー」 2020年
- 5) 高知市「にじいろのまち・職員ハンドブック～性的志向・性自認（SOGI）について理解し、行動する～」  
2020年
- 6) 葛西真記子「中学生・高校生の「性の多様性」への意識調査ー徳島県の中学生と高校生を対象にー」鳴門教育大学研究紀要  
2021年
- 7) マイケルホール 『Red あかくてあおいクレヨンのはなし』 子どもの未来社
- 8) サトシン 『わたしはあかねこ』 文溪堂

【指導助言者】 東京学芸大学教職大学院 教授（川崎市総合教育センター専門員） 佐見 由紀子